

ふれあい

大代地区コミュニティ推進協議会

事務局；大代地区公民館 ☎ 364-8442

新年を祝う会を終えて

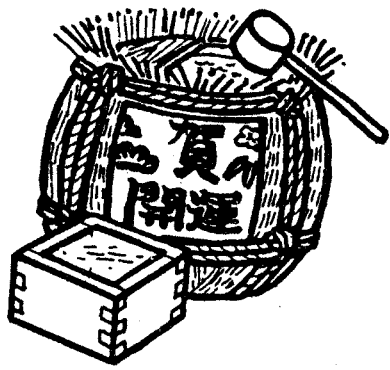
新年を祝う会も今年で第十一回目を迎えました。

参加者の人数についていろいろ心配されましたが、行政区長さん等のご配慮をいただき、大代全区より来賓者を含め七十数名の参加を得て盛会裡に終わることができました。舞台では、大代西区・鎌田賢治さんの祝い唄から始まり、大代南区の貞山太鼓が披露され、子供さん達のバチさばきに会場から大きな拍手が送られました。本当に見事な演技でした。又、カラオケ等も多くの方が出演され、会場を盛り上げていただき本当にありがとうございました。企画実施にあたり、多くの反省点もあつたことを念頭におき、来年の計画に反映できるよう努力して行きたいと思ひます。

終わりに、前日からの準備並びに当日のお手伝いをいただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

コミュニティ推進部長

内ヶ崎 勝夫



御祝儀 お見舞いは

三千元を限度にお返し

物はしないようにお互

い気を配りましょう

二千年、夢に向けて

二千年という記念すべき年に成人式を迎えられたことを、とても光栄に思っています。ただ、気を悪くさせてしまいかもかもしれませんが、成人式自体はそんなに楽しくはないんです。中学時代の友達と会うのが楽しみなんです。私も中学時代の友達とたくさん会いましたが、その中で連絡をとり会っていったのはほんのわずかで、だいたいが久しぶりに会う友達ばかりでした。

その友達に今、何をしているのかを聞いてみました。就職して働いている人、まだ学生の人、今年結婚をする人、ミュージシャンになりたい人、タレントになりたい人、実に色々な人が色々な道を進んでいるんだなと思いました。話をする時は当然、話している相手の顔を見るんですが、みんなと話している気が付いたことがあるんです。みんな、キラキラしているんですよ。その理由はずいぶん分かりました。夢に向かってひたすら走っているからなんです。

話をすると、それぞれ何かしらの夢を持つていました。私もその中の一人で、例外ではありません。私は就職先が決まり、親元を離れて今年から社会に出ていくことになりました。しかし、まわりの人たちは、「この不況の中でとりあえず就職が決まって良かったね」などとは言われたくないんです。それは自分にはよりよい医療機器をつくりたい、自分でつくった医療機器で人々を助けたいという夢があつたからです。こういう強い想

みんなの力で支えあう地域活動

昨年も全国で悼ましい事件が相次ぎ、何でこんなことが？というように皆さんも何度か心が悼んだことでしょう。その背景には、よく核家族化や隣り近所付きあいの薄れなど、現代社会構造(環境)の変化によるものと云われていますが、どのようにお考えですか。

昔は、隣り同士、地域みんなが互いに協力、支えあう機会が今より多かつたと感じていませんか。しかし、今も昔もその機会は変わらなく、むしろ自己中心で自分以外のことに無関心、まして地域活動のためにと思う意志が個々に薄れているのが現状ではないでしょうか。そのような中で若いも若きも地域のために頑張っている姿を見かけ、ほっとした思いをしたので紹介します。

日赤奉仕団講習会のお知らせ

日 時 二月十三日(日)

午前十時から

場 所 大代地区公民館二階会議室

講 師 日本赤十字社宮城県支部 事業推進課員

講習内容 『一般家庭看護法』

大代五区は第七分団と称し、五班編成でそれぞれの活動をしており、今回はその統一講習会の開催となります。

団員は勿論、家庭を守る奥さん方も参加していただき、有事に対する認識を深められるようお願いいたします。

大代五区連合会長

大代西区 三浦 正之

また、昨年十一月二十七日、大代生協前の県道を車で通りかかると袋を片手にゴミ拾いをする人を見かけ、あれ誰かなと思つてみると、その後にはメンバーが続ぎ、あとで地元の第一百寿会(老人会)の方々であることがわかりました。

幸い大代地区には、地元の情報紙として『ふれあい』が毎月始めに全世帯に配布され、いろいろな事業や地域活動などが掲載されています。これから機会があれば地域のため、自分の住む良きまちづくりのためにも自分ができるところから参加したいものです。

東豊中2年生と第一百寿会の皆さんご苦労様でした。 大代南区の住民



大代東区の社会教育事業から

大代東区では平成八年度から区独自に社会教育振興事業を実施しています。これは町内会が組織されてまだ六年と新しいことから、このような事業をとおして住民同士の連帯感を醸成し地域づくりの様々な行事への参加を促していくために行っているものです。

これまでに実施した事業をご紹介します。

地域内の緑の観察会や樹木の標識づくり、泉ヶ岳でのふれあいハイキング登山、成人女性を対象としたフラワーアレンジメント、手づくりコサージュ、エアロビクス、ステンシル、乳製品を使った料理などの各種講習会、その他洋ランの育て方や普通救命講習会、暮らしの中の防災の知恵を学ぶ講習会やお父さんのためのお酒講座などを実施しており、参加者の皆さんにとっても日々の生活からちよつと離れて、自分の趣味の領域



や視野を広げる場、あるいはリフレッシュを図る機会となっているように思っています。

しかし、これまで実施してきて残念に思うことは、参加人数があまり多くないということです。「社会教育」、特に「教育」という言葉が付くと何か取っ付きづらくて、難しい感じがするということがあるのかも知れません。このため、毎回チラシの回覧で全世帯に開催のお知らせをしています。なおPR不足もあってか、参加者集めは講習会などへの参加経験のある方々の口コミでその輪を広げているのが実情です。

皆さんの中でも年齢に関係なく、日ごろ自分の趣味や興味を生かして独自に何かを学んだり、また、今の世代でしかできないことや遊びを楽しんでいる方も多いのではないかと思います。アメリカの実業家であるサミュエル・ウルマンという人の詩に「青春とは人生のある期間を言うのではなく、心の様相を言うのだ」というのがあります。

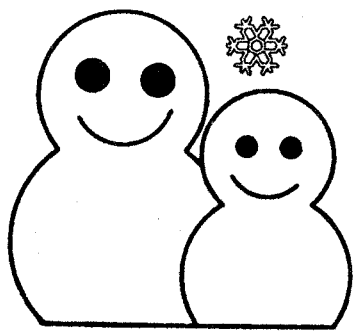
これは、好奇心や探求心、情熱さえ持っていれば、どんなに歳をとっていてもその人は青春だという意味ですが、「青春」は若い人の占有物ではない、若い人でもうかうかしているとしつこぎの青年に追い越されてしまうということも言っています。

今後でもできるだけ多くの方々に参加頂けるように事業内容や開催日時の設定

定などをいろいろ検討し、気軽に楽しく参加できるように雰囲気づくりに努めていきたいと思っています。そして最終的にはこうした事業を通して、二十一世紀を担う子どもたちのために、大人の私たちが今地域に残してやれるものは何か、そしてそれを「物」という形で、あるいは「仕組み」として残していければ、また、そのきっかけづくりのお手伝いができればと常々考えているところです。

大代東区社会教育振興員

但木正敏



短歌

本郷 貞子
亡き母に習ひて供ふ十五日粥
われより後は絶える行事に
(正月行事)

小倉紀美子

年古りて穏しくなりしかなんとなく
言ひたき事を呑むを常とす

跡辺 文江

御所人形を作らん材は三十年

乾燥したる桐の木と聞く

連載読物

二代目花咲かじいさん「19」

若生一徳(大代西)

話しかけてもすぐ外方を向き、ふくれつらばかりみせるようになった妻に、松之助(初代花咲かじいさん本名)自身もむつりしよんぼり、さびしさひとしおとなっています。

横座にいたたまれず、松之助は雑草生い茂る庭を歩きつ戻りつし始めました。隣家との境に葬ったポチの墓の前で、ぐうつと憂いがつり立ちすくんだときです。茂作じいさん(二代目花咲かじいさん)宅から、突如としてあがった歓声に度肝をぬかれました。

「ああ、何という明るさ。この世の陰気をとことく吹き飛ばしてしまおうような高笑い。精気がみなぎって、あかつての自分こそ、その明るさを一番のよりどころとして、くもりなく生きていたのに。」といううるわしい想念が、松之助の胸中にひらめきました。ところが、そこが運命の岐れ路というのでしようか、驕慢におぼれた習慣がまたしても角を出し、ひとりよがりな嫉妬と孤独の二重奏にさいなまれて、無法者のお告げでお祭りさわぎをしているとは!との邪心に身を任せると、村外れの田んぼ道を歩きまわり、幾時かを過ぎすと、茂作じいさん所有の山畑を、肩を怒らし、烈しい目つきで睨み据ええました。(続く)